

様式第二号の八(第八条の四の五関係)

(第 1 面)

産業廃棄物処理計画書	
2015 年 5 月 15 日	
愛 知 県 知 事 殿	
提出者	
住 所 名古屋市中区錦 1－1 9－2 4	
氏 名 株式会社N I P P O 中部支店	
執行役員支店長 藤田 将寛	
(法人にあっては、名称及び代表者の氏名)	
電話番号 0 5 2－2 1 1－6 5 9 1	
廃棄物の処理及び清掃に関する法律第 12 条第 9 項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。	
事 業 場 の 名 称	株式会社N I P P O 知多出張所
事 業 場 の 所 在 地	愛知県知多郡東浦町大字森岡字藤後 2 7－2
計 画 期 間	2025年4月 1 日～2026年3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
①事 業 の 種 類	0 6 総合工事業
②事 業 の 規 模	元請工事高 45, 599万円
③従 業 員 数	16人
④産業廃棄物の一連の処理の工程	別紙のとおり

(第2面)

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項			
<div>(管理体制図) 本社・社長 ↓ ←【環境安全品質保証部】 中部支店長 … (統括責任者) ↓ ←【環境安全品質保証グループ】 愛知統括事業所 ↓ 出張所 … (産業廃棄物処理責任者) ↓ 工事現場施工担当者</div>			
産業廃棄物の排出の抑制に関する事項			
① 現状	【前年度（ 2024年度）実績】		別紙明細の通り
	産業廃棄物の種類		
	排 出 量	t	t
	(これまでに実施した取組) 自社設計施工工事については、排出量を極力減らす工法を採用		
② 計画	【目標】		別紙明細の通り
	産業廃棄物の種類		
	排 出 量	t	t
	(今後実施する予定の取組) 引き続き今後も自社設計施工工事については、排出量を極力減らす工法を採用する		
産業廃棄物の分別に関する事項			
①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 職員一同に産業廃棄物処理に関する講習を義務付け、法令遵守に努めている。		
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 産業廃棄物と一般廃棄物との区分けを従業員及び下請従事者に朝礼・協議会において指導徹底する		

(第3面)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

① 現状	【前年度（ 2024年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行った 産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組) 実施していない		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行う 産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

① 現状	【前年度（ 2024年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行った 産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量した 産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組) 実施していない		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行う 産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量する 産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

① 現状	【前年度（ 2024年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行った 産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組) 実施していない		
	【目標】		
②計画	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行う 産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

① 現状	【前年度（ 2024 年度）実績】 別紙明細の通り		
	産業廃棄物の種類		
	全 処 理 委 託 量	t	t
	優良認定処理業者への 処 理 委 託 量	t	t
	再生利用業者への 処 理 委 託 量	t	t
	認定熱回収業者への 処 理 委 託 量	t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処 理 委 託 量	t	t
	(これまでに実施した取組) 当社より発生する廃棄物は、アスファルト塊、コンクリート塊が 大部分を占めており全量再生利用されている。		

② 計画	【目標】別紙明細の通り		
	産業廃棄物の種類		
	全 処 理 委 託 量	t	t
	優良認定処理業者への 処 理 委 託 量	t	t
	再生利用業者への 処 理 委 託 量	t	t
	認定熱回収業者への 処 理 委 託 量	t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処 理 委 託 量	t	t
	(今後実施する予定の取組) 再生利用業者を継続していく。		
※事務処理欄			

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

【前年度(2024年度)実績】

	廃棄物の種類	汚泥	がれき類	がれき類	その他がれき類
	名称(任意の名称を記入してください)		アスファルト	コンクリート	鉱さい
①	排出量(t)	12.45	2481	2638	40
②	自ら再生利用を行った量(t)	0	0	0	0
③	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った量(t)	0	0	0	0
⑤	自ら熱回収を行った量(t)	0	0	0	0
⑦	自らの中間処理による減量(t)	0	0	0	0
⑩	処理委託した全量(t)	12.45	2481	2638	40
⑪	優良認定処理業者への処理委託量(t)	0	0	0	0
⑫	再生利用業者への処理委託量(t)	12.45	2481	2638	40
⑬	認定熱回収業者への処理委託量(t)	0	0	0	0
⑭	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量(t)	0	0	0	0

	廃棄物の種類	汚泥	がれき類	がれき類	その他がれき類						
	名称(任意の名称を記入してください)		アスファルト	コンクリート	鋳さい						
①	排出量(t)	15	2500	2500	50						
②	自ら再生利用を行う量(t)	0	0	0	0						
③	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う量(t)	0	0	0	0						
⑤	自ら熱回収を行う量(t)	0	0	0	0						
⑦	自らの中間処理による減量(t)	0	0	0	0						
⑩	処理委託する全量(t)	15	2500	2500	50						
⑪	優良認定処理業者への処理委託量(t)	0	0	0	0						
⑫	再生利用業者への処理委託量(t)	15	2500	2500	50						
⑬	認定熱回収業者への処理委託量(t)	0	0	0	0						
⑭	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量(t)	0	0	0	0						

産業廃棄物発生フロー図

